

でした。その後、Post Doc. でも、GFDL へ行き、Dr. Manabe のところに居ました。私の人生では、大事な時に、日本人に、非常に、世話になるということが起きています。そのあと、1977年に、MIT の faculty になりました。やがて、1979年に、GLAS に移り、そして、1983年に、COLA が出来たので、Maryland 大学に移って来ました。

問：どんなことに興味がありますか？

—現実の気候の予測に興味があります。一か月から季節予報、モンスーンの予報や、coupled system の予測可能性に興味があります。

問：今は、何をすべきだと思いますか？

—もっとモデルを良くすること (couple model を含めて) が急務だと思います。気象学の研究には、良いデータと良いモデルが不可欠ですが、現在のモデルはそれらにみあうだけの十分な能力を持っているとは思われません。10年位努力して、realistic な simulation が出来るようになったら、それを使って研究をすれば良いでしょう。

問：今後、どの様なところを強化してゆくべきだと思いますか？

—もう少し、数学や物理学との接触を強める必要があると思います。例えば、非線形波動など、その分野で発展した成果をもっと取り込んでゆく必要があるのではないかと感じています。

問：若い人達に一言。

—最近、アメリカでは、若い人達を科学にむかわせることがむつかしくなっています。しかし、気象学は、科学的に見て興味ある問題であると同時に、社会的に見ても非常に重要であるという独特の性格を持っています。非常にやりがいのある仕事であると思います。

「貧しきインドの寒村に生まれ、花の MIT へのし上がってゆく success story、毀譽褒貶は世の習いとて、いろいろという人は多かれど、男 Shukla よどこへ行く」という感じにさせる interview でした。不断は非常に「強い」Shukla ですが、合い間合い間に、かつての「必死に勉強していた頃の青年 Shukla」の面かけがうかがわれて、なかなか興味深いものでした。今後の活躍を期待したいものです。

(住 明正)

## 第13回レーザセンシングシンポジウム要項

主 催：レーザ・レーダ研究会シンポジウム実行委員会

(実行委員長：九州大学 前田 三男)

協賛 (予定)：電子情報通信学会、電気学会、応用物理学会、分光学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、気象学会、測地学会レーザ学会、リモートセンシング学会、計測自動制御学会、大気汚染学会、光学懇話会

開催日時：平成元年10月2日(月)・3日(火)

場 所：〔1日目〕九州大学総合理工学研究科  
レーザ・応用プラズマ計測実験棟  
〒816 福岡県春日市春日公園 6-1  
(TEL. 092-573-9611)

〔2日目〕大丸別荘

〒818 福岡県筑紫野市大字武蔵二  
日市温泉  
(TEL. 092-924-3939)

発表申込締切：平成元年6月30日

発表原稿締切：平成元年8月21日

参加申込締切：平成元年8月31日

(原稿はA4版、2ページまたは4ページ。原稿用紙は発表申込いただいた方にお送りします。オフセット印刷)

発表申込先〒812 福岡市東区箱崎 1-10-1

九州大学工学部電気工学科

前田 三男

TEL 092-641-1101 (内線5301, 5321)

FAX 092-631-2790